

授業科目名	高次脳機能障害学・評価法Ⅱ	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	岡田健太郎	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>高次脳機能障害は、言語・認知・行為・記憶・その他の様々な知的能力、およびそれらの維持に必要な背景の障害のことであり、言語聴覚障害学の根幹をなすものである。このメカニズムを学び、将来、言語聴覚士として臨床に臨んでもらいたい。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>高次脳機能障害により、さまざまな症状（記憶障害等）が起こりうる。その症状について理解を深めること。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	失行①：古典的三大失行（観念運動失行・観念失行・肢節運動失行）				
第 2 回	失行②：古典的三大失行（観念運動失行・観念失行・肢節運動失行）				
第 3 回	失行③：構成失行・着衣失行・発語失行				
第 4 回	発語失行と運動障害性構音障害の鑑別点				
第 5 回	言語聴覚障害と高次脳機能障害の関連性				
第 6 回	言語聴覚障害と聴覚失認との関連性				
第 7 回	言語聴覚障害と発語失行との関連性				
第 8 回	言語聴覚障害と失読・失書との関連性				
第 9 回	小児の高次脳機能障害				
第 10 回	右半球損傷と高次脳機能障害				
第 11 回	頭部外傷と高次脳機能障害				
第 12 回	高次脳機能障害における職種連携と言語聴覚士の役割				
第 13 回	高次脳機能障害の評価とリハビリテーションについて				
第 14 回	高次脳機能障害のスクリーニング				
第 15 回	まとめ				
評価方法	定期試験80%、提出物20%				
教科書 参考図書	〔教科書〕 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学（医学書院）				
履修上の 留意点	高次脳機能障害学・評価法Ⅰの復習をしておいて下さい				
メッセージ	実習でも必要な知識が多く、よく復習して理解を深めて下さい				